

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692900067		
法人名	医療法人社団 紀洋会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームふくろくの郷 1階		
所在地	京都府八幡市八幡福祿谷166-1		
自己評価作成日	平成26年8月13日	評価結果市町村受理日	平成26年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=2692900067-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年 9月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月26日に開設し、地域との交流を大切にしている2ユニットのグループホームです。一人一人が役割を持ち、その人らしく、安心感や達成感のある生活、笑顔のあふれる生活を目標にスタッフ全員で協力しながら取り組んでいます。月に一回は外食日やお菓子作りなどの行事を行い、買い物やドライブなど個別ケアにも力を入れ、自己選択、自己決定という当たり前の暮らしに近づけるよう努めています。民謡やマジックショー・フラダンスショー、お話しのお会等々ボランティアの方々を受け入れや地域の行事などにも参加し、近隣住民の方々とのふれあいを大切にしています。入居者の皆様と一緒に小さな畑を作り、秋の収穫にむけてさつま芋を植えています。また、歌がお好きな方も多く、法人内の音楽療法士が月1回音楽療法を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いに寄り添う支援を大切にしている当該事業所では、利用者が素直に思いを伝え合える関係作りを心掛け、職員は日々傾聴の姿勢で利用者とのコミュニケーションを図り意向に沿った暮らしとなるよう努力を重ねています。開所前に行われた地域との交流機会が今に生きており、地域の方が野菜や花を届けてくれたり、マジックや音楽、傾聴等のボランティアによる定期的な訪問がある等、事業所が地域に溶け込んだ生活となって利用者の安寧に繋がっています。レクリエーションでは利用者が積極的にやりたいことや行きたい場所を伝え、カラオケやドライブ、買い物等を楽しんだり俳句の句会の継続や畑作りなど、様々な利用者への取り組みが利用者の自信と能力の発揮に繋がるよう職員は連携良く活発に支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人運営理念を下に「一人一人の思い、触れ合いを取り入れ、尊重した対応で安心できる毎日・家族のように支え合い、地域との交流を大切に笑顔・優しさ溢れる場所」を理念として開示・共有し取り組んでいる。	法人の理念をもとに事業所理念は作られ、玄関に掲示し、誰でも確認出来るようにしています。日々の支援時などに職員にその思いを聞き理念の確認に繋げ、利用者一人一人の思いや笑顔を大切にできるよう努めています。入職時には、事業所理念を伝え、共に支援に取り組めるよう心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の近隣住民との挨拶や地域の行事に積極的に参加して交流を図り、見学の受け入れやホームの行事への近隣住民の方々の参加で事業所に気軽に入り出できる雰囲気を作っている。また、ボランティアの出入りが多く日常的に地域の方と交流を深めている。	自治会に加入し情報を得て、敬老会やふれあいサロン等参加できる地域行事に利用者と共に出かけ楽しんでます。散歩時には挨拶を交わし、花や収穫物の頂き物がある等、徐々に関係が築かれています。また囲碁の相手に来訪があったり、ボランティアで傾聴やフラダンス、音楽療法などが楽しみごととなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方々や運営推進会議を通じて、認知症の方への理解やホームでの穏やかに明るく生活されている様子を見学してもらい、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回現在の事業所の状況や取り組み状況について報告し、質問等あればその場で返答している。また、参加者に意見や助言を頂き、それらを参考にして、サービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議は、自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、家族代表等が参加され、事前には全家族に伝えて参加を募り開催されています。事業所の状況や行事、職員の様子などを報告し、参加者からは議題に応じて質疑があり、活発に議論が展開されています。意見やアドバイスを受けたり、地域情報を得て様々な行事への参加機会に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回行う運営推進会議に市役所高齢介護課の方や地域包括支援センターの担当者に出席していただいている。事業所の実情等伝え、いざというときにも連携が取れるように協力関係を築く努力をしている。	市職員の運営推進会議への参加もあり、常々事業所の状況理解の機会となっています。また議事録は都度市の窓口に届け事業所の様子を伝えたり、感染症や研修情報を得て職員が参加するなどの関わりの中で協力関係を繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを職員全員が見れる場所に保管し、年1回はそれについての研修を行うようにしている。身体拘束は、その人の尊厳を傷つける行為とスタッフ各自が認識を持ち、一人一人が身体拘束をしない支援を心がけて接している。玄関は常に施錠していない。	法人の研修がマニュアルに沿って行われており、身体拘束への理解を促しています。玄関も含めて施錠をしておらず、職員は利用者へ寄り添い、出かけた気持ちや表情や様子から知り、気分転換を図ったり外出につなげるなど、出来るだけ思いに沿うように拘束感のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを使い勉強会を行い理解を深めている。言葉遣いなど虐待につながるケースがないか職員間で気づいたことがあれば報告しあうようにしている。		

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の管理者対象に行われた成年後見制度についての研修会に参加した。職員には伝達研修を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設を見学して頂いた上で、管理者と利用者様家族と十分な話し合いの場を設け、理念を含めケアに対する考え方や取り組み、契約や解約に関する説明を行い、料金に対しても説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置。その他、利用者様の意見、要望は直接伺ったり、御家族様は面会時や電話等で伺い、改善点などを速やかに実行に移している。運営推進会議にもご家族の方にも参加していただき、運営状況を伝え、意見を聞いている。また、ブログにて外部に発信している。	排泄用品の相談など家族からは個別の支援に向けた要望が中心となっており、其々に支援に繋がっています。また衣類の整理への要望では改めて全室の衣類調整や確認に繋げるなどの対応を行っています。また年に一度クリスマス会を兼ねた家族会があり、意見を聞く機会にもなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、職員からの意見・提案を聞き、運営に反映させている。職員間で見える連絡帳を活用し、職員からの小さな気づきを拾うようにしている。	毎月の全体会議やフロアごとのスタッフ会議があり、業務改善や行事企画などが話し合われています。法人による職員アンケートがあったり、委員会活動で職員の意識向上や提案できる機会になっています。管理者は、気になる状況があれば職員に対して個人面談を行うなど話し合いながら意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境・条件については職員の意見を基に話し合いを行い、また個別の努力や実績、勤務状況を把握し各自がそれぞれの能力を存分に発揮し向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に沿い、多くの職員の参加を促し、理解を深める機会を設け、資格取得に向けて励んだり、ケア実践の中で職員同士が学び合う関係作りがあり、指導者も現場に入り共に業務を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の八幡地域ケア会議に参加。同業者の参加者と話をする機会があった。また、法人内の勉強会や法人の運営会議に参加し、法人内のグループホームの活動報告を聞き、運営の参考にしている。		

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約前に利用者様と面談を行い、アセスメントを取り、困っている事、不安に思っている事、希望していることに耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時以外にも電話や訪問された際に近況報告をまめに行い、不安なことや要望などに耳を傾けながら、良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者様の状況・家族様の状況など、お話をよく聴き、その状況に合った対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと、好んでいることなど役割を持って頂き、共に支え合える関係づくりに努めている。畑の耕し方や料理の方法など入居者の方から職員が教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話や毎月「たより」を発行し生活の様子を報告している。また行事にお誘いしたり、一緒に外出したりする機会を作って頂いたり、面会出来ない時は電話で話をしていただけるよう配慮し関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会やハガキ、電話など、御家族に協力して頂きながら馴染の人と会ったり、連絡が取れるように支援している。	幼馴染みや友人知人の来訪があり、ゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。行きつけの美容院への送迎や以前住んでいた家の周辺を車でまわるなど思いに沿って支援しています。孫の結婚式への参加や家族と墓参りへの支援など出かけるまで体調管理や準備をして送り出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者様同士がそれぞれに関わりがあり、互いに気にかかけられながら生活されている。1階2階の利用者様同士の関わりもあり、お互いに声を掛けられる場面がある。		

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合はお見舞いに行ったり、ご家族に連絡をとるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに耳を傾けるように努めている。日々の生活での会話や行動などから何を希望されているのか把握し対応したり、意向聴取が困難な場合はご家族からの話を聞いたりして、把握に努めている。また、本人の意向を尊重し、無理強いのケアを行わないようにしている。	利用者の身体の状況、食事や排せつなどの情報や情報提供表など他事業所からの聞き取り、入居後の様子を記録し現状を知ることから思いの把握に繋げ、介護計画に記録しています。担当者会議では事前に利用者や家族の思い聞き取り、職員間で本人本位に検討しています。	アセスメントを行うにあたって、利用者の身体的な状況が中心に行っていますが、更に思いに繋がる生活歴や趣味などの情報の収集したこともまとめられ、より深く利用者の思いが探れるようにされてはいいでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、ご家族を含め、過去の生活歴や経験を聞き、情報提供書を作成し、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個人ケース記録に利用者の行動を細かく記入し、生活パターンを把握しながら支援を行っている。また、別ユニットにて異常があった際には職員連絡帳を使い情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、ケアの内容の確認・最近の様子や課題点など話し合っている。ご家族にも状況を伝え、意見を聞き、介護計画に反映できるようにしている。	アセスメントや聞き取った利用者・家族の思いを基に担当者会議を経て介護計画は作成されています。日々の支援時には介護計画に沿って実施情報を把握し、3か月毎に評価しています。大きな変化が無い場合には6か月に一度見直し、見直しにあたって担当職員職員が家族や利用者の意向を聞き再アセスメントを行い、状況により医師や看護師の情報を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列に日々の様子やケアの実践・気づき、食事量、水分量、排泄など身体状況、エピソードなど個人記録に記入し、記録は職員間で共有し、チームケアの実践、ケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般を支援し、ご本人・ご家族の状況に応じて、必要とするニーズに柔軟に応えられるように対応している。月間予定や一日の流れはあるものの状況に合わせて変更している。		

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、外食、地域行事への参加などを通じて楽しく暮らしている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得て月2回往診・訪問看護を実施中、希望のかかりつけ医があれば、かかりつけ医に受診できるよう通院介助等の支援をしている。	入居にあたってかかりつけ医の選択が可能であることを伝え、希望のかかりつけ医を継続している利用者には受診支援を行い、協力医は月に2回の往診の他24時間の対応が可能で何かあればアドバイスや指示を得ています。歯科から往診に来てもらったり、元々かかりつけの歯科医や整形外科医等の病院への受診支援もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来所時に普段の様子等伝えるように努め、何か体調に変化があれば電話連絡するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、退院時の打ち合わせなど、入院先と連携を取りながら支援している。また、利用者様が入院された場合は入院状況の様子を確認するのも兼ねて定期的に面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、その都度ご家族と話し、ご家族の意向を確認したり、事業所でできること等含めた説明をしている。重度化・終末期に対してご家族や介護していく側の職員の不安点も聞きながら、今後は、かかりつけ医・往診・訪問看護等と相談し対応していく予定。	運営推進会議で看取りについての質問や家族からの要望があり、医師や家族の協力を得ながら看取りの支援も可能であることを家族に伝えていきます。医療処置が必要な場合など出来る事や出来ない事などを伝え、重度化した場合などには家族、医師、事業所と三者で話し合い、方向性を検討しています。職員に対してスキルアップや不安感を無くす意味もあり研修の計画が進められています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが全職員が共有できる場所に置いてある。研修やOJTで応急手当や初期対応の訓練をし、実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回避難・火災訓練を実施している。	年2回消防署の立ち合いを得て、消火器やAEDの使用、避難誘導を昼夜を想定した訓練を行っています。民生委員の協力を得て誘導訓練を行うなど具体的な訓練が行われています。備蓄やカセットコンロなどの非常時の物品を備え、災害情報が届いた時には確認をするなどの体制が整えられています。	

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとり一人が人格を尊重しプライバシーを損ねない声かけや対応ができるようスタッフ会議や日常の中で随時確認と改善をしている。また、ご利用者に対する言葉かけで気になることがあれば、職員同士が注意しあえる関係が築けるよう努めている。	基本的には丁寧語で目上の人への節度を大切に利用者への声掛けをしています。また、勉強会で接遇マナーについて学ぶと共に不適切な言動があれば、随時声を掛け注意を促しています。職員間でも互いに注意し合う関係を作り、耳元での声掛けなどプライバシーに留意し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを大切にし、利用者自身にどのようにされたいか決めて頂ける様留意し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムに配慮しながら起床・食事・入浴・就寝など本人の生活ペースに対応し、強制にならないよう声掛けし、本人が拒否の意思を表した場合は別のアプローチや見守りにて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から自分の好みの服を着て生活できるよう見守っている。自分で身だしなみを整えるのが難しい方には、職員がさりげなく整えられるように気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備・後片付けなど出来ることは手伝って頂き、また、月一回は外食やメニューを決める時に希望の献立や旬の素材を取り入れ、食に対しての楽しみを共有している。	利用者の意見を聞き担当者が1週間分の献立を作り、2日に1度職員は利用者と共に買い物に出かけ、時には畑の収穫物が食卓に上ることも有ります。野菜を切ったり盛り付けや下膳など、利用者の出来る事に携わってもらっています。朝夕の食事は職員も利用者と共に食卓を囲み団欒の時間となっています。また、毎月外食を企画したり、おやつ作りなどを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価に関しては、法人内の管理栄養士から定期的に評価してもらいアドバイスを得ている。食事量・水分量は毎日記録し、栄養摂取や水分確保に努めている。体重測定は毎月行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医師の診察と歯科衛生士による口腔ケアを受けている。特に朝食後は重曹を使用し、舌苔の除去を行い、肺炎防止の支援に努めている。必要に応じて職員が介助を行っている。		

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、個々の排泄パターンを把握し排泄の自立に向けて、声掛け・誘導を行っている。	排泄チェック表をもとに利用者の排泄パターンを把握し、個々のタイミングで誘導する中で失敗を無くすように支援しています。入居時には紙パンツであった利用者も失敗が減り、布の下着とパッドに変わられた方も何人かおり、精神面や皮膚の状態が改善するなど、環境の良好な変化に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や乳製品などの摂取、適度な運動を一緒に行い、自然な排泄を目指し取り組んでいる。困難な方には主治医と相談し下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や習慣に合わせて、入浴回数を増やしたり、ゆったりと入浴を楽しめるよう支援している。また入浴剤を使用し温泉気分を味わって頂けるよう配慮している。	入浴は少なくとも週2回と考え、利用者によっては毎日入浴されている方もいます。時間帯も利用者の要望に応じ、午前午後で湯を入れ替え支援しています。拒否される方には、無理強いせず声掛けや時間を変えるなど工夫をしています。季節のゆず湯やしょうぶ湯なども企画し、楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、昼夜逆転にならない生活リズムを整える努力をしている。一人一人の体調や体力、希望などを配慮した休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し服薬は準備⇒確認(声だしで名前・日付)⇒飲み残し・飲み忘れがないか確認の工程に分担し、確実に服用するのを見守り、チェック表に担当者がサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やカラオケ・習字・縫物など各利用者が得意とする分野を職員が把握し、それぞれに合わせて活力ある生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、食材の買い物や個人の買い物、季節を感じられる外出など、外に出掛ける機会を毎日のように持てるよう支援をしている。また、ご家族と一緒に外出されたり、地域の行事に参加したりして、これまでの生活を維持できる支援をしている。	日々天気が良ければ近所周りを散歩し、一日おきに買い物に出かけています。利用者に声掛けをして気軽に車で出かけ、以前住まわれていた家を見に行くなど近辺の行きたい所に出かけています。季節ごとには初詣、桜や菖蒲、秋桜等の花見や紅葉狩り等の季節のドライブも楽しんでもらっています。	

グループホームふくろくの郷(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり金庫にて保管している。外食や買い物希望された時は、都度職員が付き添い、なるべく支払は本人に支払って頂いて。また、セブンイレブンの訪問販売で好きなものを買われている。ご家族様には2ヶ月毎に請求書と一緒に収支決算を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得て、希望時にご本人がご家族や親せきの方に電話されたり、かけて頂いたり出来る環境を整えている。また友人に年賀状、暑中見舞いなど季節の便りのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に作成したものを飾り家庭的な雰囲気心を掛けている。また季節に合ったものを飾りつけ季節感を出したり、花が好きな方が多いので、花を飾ったりしている。共用空間は常に清潔保持に心掛け、排泄物やゴミなど不快に感じる臭いには十分注意している。	利用者と一緒に作られた季節の作品で壁面が飾られたり、行事の写真や句会での利用者の俳句作品、行事予定等をわかりやすく掲示することで生活を振り返ったり楽しみにされている方もいます。定期的な机の配置換えで気分転換を図ったり、利用者と共に日々の掃除を行い清潔の保持に努めると共に、温湿度の管理で居心地の良い空間作りがなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では一人になれるスペースはないが、気の合った利用者同士で談話出来たり、独りになれたりテーブルやソファの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力を得て、自宅で使用されていた馴染みのあるものを持ち込んで頂き、本人様が少しでも居心地良く思えるような居室づくりを心掛けている。(食器・衣類・布団・家具など)	居室は使い慣れた筆筒やチェストの配置で居心地よくなるよう、家族との話し合いで整備しています。鏡台や写真仏壇など其々の利用者の思いの詰まった家具や飾り物で、安心して過ごすことができる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などはわかりやすく表示し、一人一人に合わせて対応している。		